



政務活動費出金票

出金日	令和2年11月17日
項目	調査研究費
摘要	会津若松市他視察
金額	40,050 円
支出内訳	<p>視察・研修費</p> <p>燃料代 6,258円 ①</p> <p>高速代 8,264円 ②</p> <p>宿泊費 23,000円 ③</p> <p>視察先土産代 2,128円 ④</p> <p>震災遺構ガイドブック 400円 ⑤</p> <hr/> <p>計 40,050円</p> <p>他会派（自民党議員会、公明党）と合同視察（計5名）</p> <p>①燃料代15,643円中2名分6,258円</p> <p>②高速代20,660円中2名分8,264円</p> <p>③宿泊費5,500円×2、6,000円×2</p> <p>④土産代1,064円×5のうち2名分2,128円</p> <p>⑤ガイドブック200円×2</p>
領収書	別紙

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏名 石崎一成  
 浜田泰友

	会派会長印	経理責任者印
承認		

# 政務活動費旅費計算書

会派名

しおかぜ

金額



40,050 円

(1人あたり)

20,025 円)

用務	屋内遊技場「わくわくヒルズ」、会津若松市議会改革、スマートシティAiCT、(株)オクヤピーナッツジャパン、震災遺構中浜小学校の視察のため					
旅行先	新潟県阿賀野市、福島県会津若松市、喜多方市、宮城県山元町					
旅行期間	令和2年11月17日～令和2年11月19日( 2泊 3日)					
種別	区 間		乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計
鉄道賃	自	駅 至 駅	円	円		円
	自	駅 至 駅	円	円		円
	自	駅 至 駅	円	円		円
	自	駅 至 駅	円	円		円
	自	駅 至 駅	円	円		円
車 賃	区 間		借り上げ料金	燃料費	高速料金	合 計
	魚津→阿賀野→会津若松→喜多方 →会津坂下→喜多方→山元→魚津		円	6,258 円	8,264 円	14,522 円
宿泊料	@5,500円×2名=11,000円 @6,000円×2名=12,000円				2泊分	23,000 円
その他(駐車料金等)	(内訳) 視察先土産 1,064円×5か所、うち2人分2,128円 震災遺構中浜小学校ガイドブック200円×2冊、400円					2,528 円
備考	自民党議員会、公明党、しおかぜの5名の合同視察 燃料費15,643円中2人分6,258円、高速料金20,660円中2人分8,264円 ※新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考慮し、公共交通機関は利用せず、 久保田議員(自民党議員会)の私有車を使用する。					
合計						40,050 円

旅行議員氏名 石崎 一成  
浜田 泰友  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

承認印	
会派会長	経理責任者
	

海の駅 豊気 様

TEL 0765(24)4901

またの御来店を  
お待ちしております  
ありがとうございました

2020年11月16日 13:01 責任07  
000001#7423

しろえび銀行 額	内: ¥4,320
	170x 5
豊崎松月堂 小竹	内: ¥850
	30x 5
レンジ持ち手付紙袋	内 ¥150
※小計	¥5,320
内税小計	¥150
(内税)	¥13
内2小計	¥5,170
(内税2)	¥382
※合計	¥5,320
現金	¥5,000
おつり	¥80

内2 は軽減税率対象商品です

カード [ ] アドブルー [ ]  
キャップ [ ] [ ] 担当 [ ]



領収書

印紙税中巻付  
何につき本出  
以務専承係

353004

名立谷浜サービスエリア上り給油  
TEL 025-931-5255  
株式会社日本エネルギー  
本社 東京都文京区本郷2-22-2

売上 2020年11月19日 22:30  
上 機 手  
現金フリー 00-953094-90091-0001-9

レギュラーガソリン P- 2(内)  
38.78L 0142.0 6500円  
(※抜 0129.1)

01200. 00

合計 5,500円  
(内、消費税等(10.06%) 500円)

釣銭 1万円: 4,500円  
6千円: 500円

伝No: 10920 担当: 2830  
釣銭機処理No: 0288

※ 本番保管上のお願  
財布・手帳等にはさんで保管願  
合は、印刷面を内側に折り保管を  
願いたします。



領収書

印紙

348148

スーパーセルフ農田SS  
株式会社京日本エネルギー  
宮城県仙台市宮城野区大森町新生1  
TEL 0224-87-6780

売上 2020年11月19日 18:45  
上 機 手  
現金フリー 00-340143-85001-0801-9

出光ゼアス P- 4(内)  
38.97L 0118.0 4382円

合計 4,362円  
(内、消費税等(10.06%) 387円)  
釣銭 10,000円  
釣銭 5,638円

伝No: 10607 担当: 8008



新内品管 (令頁又注)

有限会社エンドウ石油販売  
宮多方  
福島県宮多方市興楽町上高瀬  
字原田629-1  
TEL: 0241-23-1161 SS-068286

2020年11月18日 12:09 伝票No. 0097  
通番2283

CASH MEMBER 様  
61-06829-000004-001  
売上 現金フリー

11200  
レギュラーガソリン P15 ¥5781  
歌紐 41,00(L) ¥526  
岸価 0141

合計 ¥5,781  
(内) 消費税 ¥53.8 ¥2205  
(内) 消費税10%(対象 ¥5781) ¥526  
釣銭 1万: 4218 8千: 218  
カード有効期限 99年12月  
担当: 4- [ ]

8970-8970 01 2020/11/18  
上記にて領収書に替えさせて頂きます

領収書 No. \_\_\_\_\_

豊気 様

一金 1,000 円也

口入館料

口 (個人)

一般: 400円 × 名  
高校生: 300円 × 名  
小・中学生: 200円 × 名

口 (団体)

一般: 300円 × 名  
高校生: 200円 × 名  
小・中学生: 100円 × 名

口案内冊子料金

日本語版: 200円 × 5部

カシヤニ付 75,643

高橋代 20,860

毎々当社のカードをご愛用いただきありがとうございます。再作製  
 過日ご利用いただきました「ご利用明細」と「お支払明細」、「お支払日」を  
 下記の通りご案内申し上げます。ご指定の口座を通してお支払いいただきますので、  
 「口座残高」のご確認も併せてお願い申し上げます。  
 なお、お支払口座へのご入金はお早めにお願ひ申し上げます。

久保田 満宏 様

三井住友カード株式会社  
 大阪市中央区今橋4丁目 5-15  
 登録番号 近畿財務局長第00209号

ご利用はこちら

三井住友カード会員向けインターネットサービス  
 [Vpass (ブイパス)] <http://vpass.jp>

明細書枚数 1枚中 1枚目

カードのご利用枠 (家族カード発行時は共通のご利用枠)			
カードの種類	VISA		
総利用枠	万円		
カード利用枠	万円		
内リボ払い	万円		
内分割・2回・ボーナス	万円		

まだお支払いの済んでいない金額の合計額 (未決済残高) が  
 カード利用枠の範囲内となるようにご利用ください。

お支払日	2021年1月26日(火)
お支払合計額	20,660 円

金融機関	
支店	
科目	普通
口座番号	

お客様の個人情報保護のため、口座番号の下3桁を表示しておりません

カード名称	三井住友カードVISA
会員番号	
加入・切替日	2013年9月4日

お客様の個人情報保護のため、会員番号の下3桁を表示して  
 りません。

カードを安心してご利用頂けるよう以下のことにご協力ください。

- ◆カード名義人ご本人以外は、たとえご家族の方であっても、カードをご利用頂くことはできません。  
 また、カードの裏にはサインが必要です。サインをしたカード名義人ご本人の方のみがご利用になれます。
- ◆カードご利用時等、暗証番号が必要となる場合がございます。暗証番号は他人に知られないよう十分にご注意ください。

ご利用年月日 (年/月/日)	ご利用店名	ご利用金額	支払 区分	今回 回数	お支払金額	摘要	備考
4980 0378 0488 3---	(三井住友カードVISA) 久保田 満宏 様						
201117	ETC 東北支社	2100	1	1	2100	自安田 至会津若松	普通車
201117	ETC 新潟管理局	5570	1	1	5570	自魚津 至安田	普通車
201119	ETC 東北支社	3690	1	1	3690	自会津坂下 至白石	普通車
201119	ETC 金沢支社	9300	1	1	9300	自白石 至魚津	普通車

お支払金額総合計 20660

ご利用明細のご説明

<ご利用日> 前回ご案内以降にご利用データもしくは伝票が到着したものとします。  
 <支払区分> 1=1回払い、2=2回払いの支払回数、3=分割払いの支払回数、リボ=リボ払い、ボ=ボーナス一括払い 等 <今回回数> 今回が何回目のお支払いかを表示しております。

領収書

No. 007928

RECEIPT

お名前 (Name) しおかせ 浜田 様

金額 (Amount) ￥ 5,500-

日付 (Date) 2020年 11月 17日 取扱者 BY 宿代

CENTURY HOTEL

センチュリーホテル

〒965-0034 福島県会津若松市上町8番地  
Tel:0242-24-1900 Fax:0242-24-1901

領収書

No. 007945

RECEIPT

お名前 (Name) しおかせ 石崎 様

金額 (Amount) ￥ 5,500-

日付 (Date) 2020年 11月 17日 取扱者 BY 宿代

CENTURY HOTEL

センチュリーホテル

〒965-0034 福島県会津若松市上町8番地  
Tel:0242-24-1900 Fax:0242-24-1901

領収証

しおかせ 浜田 様 No. \_\_\_\_\_

★ ￥ 6,000-

但 御宿代

令和2年 11月 18日 上記正に領収いたしました

内 訳

取 入  
印 紙

コクヨ ウケ-1097

税抜金額

消費税額等(%)

喜多方市山都温泉保養センター

いいでん

福島県喜多方市山都町一ノ木字越戸乙387

領収証

しおかせ 石崎 様 No. \_\_\_\_\_

★ ￥ 6,000-

但 御宿代

令和2年 11月 18日 上記正に領収いたしました

内 訳

取 入  
印 紙

コクヨ ウケ-1097

税抜金額

消費税額等(%)

喜多方市山都温泉保養センター

いいでん

福島県喜多方市山都町一ノ木字越戸乙387

令和2年11月20日

## 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名           しおかぜ          

議員氏名         浜田 泰友         

以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	11月17日～11月19日
調査研究、研修、 要請・陳情活動先	新潟県阿賀野市、 福島県会津若松市、喜多方市、 宮城県山元町
参加者名	浜田泰友、石崎一成
目的	屋内遊技場「わくわくヒルズ」の視察、 会津若松市議会改革の視察、 会津若松市スマートシティ AiCT の視察、 (株) オクヤピーナッツジャパンの視察、 震災遺構中浜小学校の視察のため
調査研究、研修、 要請・陳情活動 内容	別紙

研究研修及び調査請願のため旅行した場合に作成し、収支報告に添付(任意様式可)

## 視察・研修報告書

日時： 令和2年11月17日（火）～11月19日（木）3日間  
視察先： 屋内遊技場「わくわくヒルズ」の視察（新潟県阿賀野市）  
会津若松市議会改革の視察（福島県会津若松市）  
スマートシティ AiCT の視察（福島県会津若松市）  
（株）オクヤピーナッツジャパンの視察（福島県喜多方市）  
震災遺構中浜小学校の視察（宮城県山元町）  
参加者： 久保田満宏、寺口智之（自民党議員会）、中瀬淑美（公明党）、  
石崎一成、浜田泰友（しおかぜ）  
計5名  
報告者： 浜田泰友

### 1. 屋内遊技場「わくわくヒルズ」の視察（新潟県阿賀野市）

かがやき福祉会事務局次長・近藤氏、わくわくヒルズマネージャー・五十嵐氏

新潟県阿賀野市にある「わくわくヒルズ」は平成27年10月に開設された子ども用屋内遊技場である。県立高校の跡地活用の一環で、社会福祉法人かがやき福祉会が買収し、特養、認可外こども園、福祉作業所、わくわくヒルズ等を一括して運営している。総工費は約18億円。補助は受けていない。わくわくヒルズは武道場跡地をリノベーションした。

遊具はボーネルンド社製をリースしている。コロナ前から90分入替制。令和元年度の入場者は一般16000名、年間パスポート利用が200名、延べ2300回となっている。夏冬の利用が主で、春秋は少ない。

工夫として、家でできる遊びの部分を減らしている。親子で体を動かすものは好評。スーパーマーケットと空き施設に入れられないかなど打診している。また、併設のこども園との連携も行っており、保育時間内に利用している。

### 2. 会津若松市議会改革の視察（福島県会津若松市）

会津若松市議会議員・吉田恵三氏

会津若松市議会では合併を経ての平成19年の議長選挙の際、議長が議会改革を提言したことから、先進地の研究を行い、平成20年に議会基本条例を制定した。特長としては、会派の明記、合意形成に努めること。専門家による参考人制度。請願・陳情の説明制度。政策討論会の導入、などがある。

5月、11月に市民との意見交換会を行っており、15地区を5エリア5班に分けて行う。基本的には議員が自ら準備する。意見、提言、要望、質問に分類し、政策討論会での検討テーマとしている。最終的には政策提言を作る。

予算決算常任委員会を設置しており、準備会では論点整理をし、テーマの策定を行っている。

広報広聴委員会では市民から意見を聴くことを重視している。広報誌を年4回発行しており、議会モニター制を導入している。

議員間討議を行っている。質疑だけでは議決の説明責任を果たせない。議論の経過、内容を示すようにしている。議員間討議において論点整理を行い、付帯意見、要望、修正案などを検討する。

### 3. スマートシティ AiCT の視察（福島県会津若松市）

会津若松市企業立地課・原氏

平成25年にスマートシティ会津若松の推進を定めた。人口減少、製造業従業員の海外流出、若年層の社会減などへの対策として、様々な分野でICTを活用することにした。産業振興を含めた「地域活力の向上」を図る。「安心して快適に生活できるまちづくり」を進める。「まちの見える化」を図る。これら3つを柱に、地方創生のモデル都市となり、他の地域へ展開可能なモデルとなることを目指す。

特長として、アナリティクス人材の育成がある。データ解析ができる人材を増やしていく。そのために、市の推進する各事業データ収集・データ基盤利活用の推進を図る。（オープンデータ推進、情報プラットフォームの会津若松+の構築）

サービスの例として、窓口でのタブレット受付。住民票や戸籍にて、紙に書くことやハンコが不要で手続きが早い。除雪車ナビ、除雪車の位置データ化。苦情の地区を地図に落とし込み、課題の分析にも。母子手帳や学校情報も。あいつっこ+では、行事の写真ダウンロードなどもできる。LINE 問い合わせ、ゴミ出し情報など、窓口への問い合わせは減っていないが、LINE の利用は女性が多く、新たな層に使われている。

スマートシティ AiCT、オフィスビル開設は平成31年4月、地方創生拠点整備交付金を活用し、官民連携で行った。工事費21億円、うち国5億円、市5億円。総工費は24億円。（株）AiYUMUが54%を出資、運営も担当している。20年の事業契約。オフィス棟入居企業は計27社。200名以上が勤務している。事業については、一度議会が否決している。理由は計画に現実味がないものだったため。その後、当局が細部を詰め、入居企業の誘致なども進め、事業化に至った。

### 4. （株）オクヤピーナッツジャパンの視察（福島県喜多方市）

代表取締役・松崎健太郎氏

豆の卸会社のおくやより分社化、農業法人オクヤピーナッツジャパンを創業した。五方良しの理念。自社、取引先、客、地域、社員。何のために経営するのか、理念を大切に、会社経営を行っている。

豆は地域農業に貢献しており、会津豆クラブを設立。70軒120名が加盟。種卸、機械レンタル、営農指導、勉強会、収穫祭などを行っている。



ピーナッツは10月収穫、11月乾燥、露天でできないため、自社で乾燥センターを整備した。

農福連携について。障害者雇用では冬の仕事がない。ピーナッツは手剥きが最高級品なので、冬にピーナッツを手剥きしてもらうことに。5町歩分、20トンの全量を手剥きしている。畑でも作業してもらう。4人一組で一人は先生。この組み合わせが一番良かった。B型施設で時給500円。午前2時間、午後2時間程度。会津には40所の障害者施設があるが、今は15所程度。いずれは全てと連携したい。

## 5. 震災遺構中浜小学校の視察（宮城県山元町）

見学ガイド・齋藤氏、山元町教育委員会生涯学習課・八鍬氏

東日本大震災の震災遺構として、9月26日に開館した中浜小学校は宮城県山元町の海岸から約400mにある旧中浜小学校の校舎をそのまま利用している。

3月11日、震災直後に津波発生の一報が入った。本来なら徒歩20分かかる坂元中学校に避難が想定されていたが、第一報では10分後の到着予測だったため、校長の判断で垂直避難することにした。屋上の小屋に避難したが、凍える夜を過ごすことになった。物資は体育館に保管してあったが、体育館は津波で大破している。何人かの大人が決死の覚悟で水の中を行き、体育館から毛布を取り出してきた。防災用の毛布はアルミ包装してあるので、使用できた。生きるか死ぬかの状況でもトイレは必要になってくる。屋上の倉庫には扉が二つあり、トイレの入り口として活用できた。翌朝、避難した全員がヘリで救助された。

海岸の堤防には切れ目があった。小河川の河口で堤防が切れており、津波の入り口となった。そこから津波は押し寄せてくるし、堤防も崩れていく。

中浜小学校の建設時、児童数の減少から平屋建てが検討されていたこともあったが、津波を経験している太平洋側だったため、地元から避難できる学校にしてほしいとの要望があり、3階建てとなった。建設時には2mのかさ上げも行った。それがあり、ギリギリ屋上の被害を免れることができた。

## 6. 考察

わくわくヒルズでは法人全体の事務局次長の近藤氏に話を伺った。オープン後に事務局を引き継いだ関係から、収益の改善に力を入れていて、料金の見直しを実施したり、年間パスポートの廃止を検討されていたりしているそうだ。民間での経営を行ううえで、収支が良好な状態であることが大前提となる。行政が運営を担う場合でも、料金設定をはじめ、どのように経営を行っていくかは重要になってくる。一方で、民間でのサービスとの競合についても考慮する必要がある。信頼できる民間事業者がいる場合は、民間を活用すべきである。魚津市において、子ども向けの施設整備を検討する際には、民間の視点を取り入れることが、持続可能な施設運営につながっていくと考える。

会津若松市議会の議会改革では、議会基本条例の制定をはじめ、多くの先進的な取り組みを行っている。特に、会派とは何かを条例に明記し、会派間での話し合いをもって、できるだけ全会一致を目指す姿勢は見習うところが大きいと感じた。政策討論会の分科会は2週に1回のペースで集まり、政策提言に向けて議論を深めているという点についても、準備も含めて、多忙なスケジュールを送っていることがわかる。議員には地域での活動、後援会に向けた活動など様々な活動があるが、議会としての活動が主である。現状では年4回の本会議が中心となっているが、政策立案に向けた取り組みをもっと進めていくべきだと考える。

スマートシティ AiCT について。会津若松市はスマートシティとしての取り組みをかなり積極的に推し進めており、行政の業務にも ICT 化を取り入れ、市民の利便を向上させている。一方で、これだけのことができる背景に、市内の会津大学という ICT 専門大学の存在がある。高等教育機関との連携、輩出する卒業生を高度人材として市内での定着、活用を図っていることに関しては、能開大、工業高校を市内に有する魚津市のまさに手本となる。また、オフィスビルのスマートシティ AiCT 開設において、地元企業で作る管理運営会社 AiYUMU や入居企業のアクセント株式会社との協力が大きかったそうだ。民間事業者がまた他の民間事業者を呼び入れてくる。民間活力の導入において、正の循環を得ることが基本となる。このような点も本市の参考になると考える。

オクヤピーナッツジャパンでは創業者の松崎氏に話を伺った。会津ピーナッツをブランド化しようと地元では著名な地域活動をされている。地域ブランドのお話もしていただいたのだが、それ以上に農福連携の取り組みが興味深かった。障害者雇用という地域に求められる仕事と付加価値を高める仕事を両立させ、地域ブランドへと昇華させていく。五方良しのビジネスになっていると思う。魚津市においても、天神山での農福連携事業が緒に就いたばかり。しかし、ビジネスの面からも福祉の面からも期待は大きい。農福連携の取り組みが進むように、地域の事業者との障害者雇用のマッチングをもっと後押しすべきではないかと考える。

中浜小学校ではやまもと語り部の会・齋藤氏のほか、当時の教諭や校長先生などもご協力されていた。校長先生からは、垂直避難を判断し屋上への階段を上る時に、こ

これから先は生きて下りるか死ぬかのどちらかになると、覚悟を決められた話を聞かせていただいた。防災への備えはやはり実際に体験された人たちから、その時の思いを受け取って、自らの備えにしていくことが必要だと思う。魚津市がある日本海側では津波の到達予想時間が短く、垂直避難を余儀なくされることもあると思う。地下に備蓄物資があったり、自家発電設備があったりした場合に浸水で使えなくなることも考えられる。経験や歴史に学び、いざという時の備えを万全にしていく工夫が求められる。中浜小学校をはじめ、防災に関わる施設は数多くある。職員研修や修学旅行などでも行先の一つとして検討してはどうだろうか。



## しおかぜ視察報告書

実施日：令和2年11月17日～11月19日

参加者：浜田泰友、石崎一成  
中瀬淑美、久保田満宏、寺口智之

記入者：石崎一成

視察場所①「わくわく hills」

利用料金：1回500円、年間パスポート5,000円

所在地：新潟県阿賀野市寺社甲3848-212

社会福祉法人「かがやき福祉会」が運営する高齢者福祉施設及び児童福祉施設の敷地内に設置されている屋内遊戯施設である。

もともとは地元にある廃止された高校をリノベーション及び改築して事業所としており、敷地と施設ともに規模が大きい。

屋内遊戯場にはクライミングウォールやボールプール、エアトラックなどの大型遊具が備えられており、小規模な施設では味わえない遊びと質があると考えられる。

### 《考察》

有休施設や廃止施設の活用としての観点、高齢者福祉と児童福祉の観点、そして社会貢献という3つの考え方を民間ベースで形にされているという点は高く評価されると考える。こういった事業を受け入れる際の行政の対応は間口が多岐に渡るため、事業者側の事務能力が非常に要求されると考えられる。今回の事業者の意見も同様であり、高い意思を持って自己資金を調達した上での経営を余儀なくされている点では、ハードルの高い事例と評価する。

視察場所②「スマートシティ AiCT」

所在地：福島県会津若松市

福島県立会津大学のコンピューターサイエンスを基礎にまちづくりへと発展させた考え方で、データ×アナリティクス（解析）＝スマートシティ会津若松という構想のもと、市の各種事業データの収集・基盤の利活用を進めるということが行われている。

そういった中で最先端 ICT 関連産業と企業集積を目的としたオフィスビルを整備したものが AiCT である。

すでに実証事業は30以上を行い、サテライト入居事業者も27軒（2020年10月現在）となっている。

持続可能な社会の実現に向けた客観的なデータ解析や行政活動の効率化に始まり、国内外の観光客の動向調査や PR に必要な指向性などの分析にも活用している。

### 《考察》

大学がカリキュラムを進展させることと行政と連携することで、学生を呼び込むきっかけとなる事、まちづくりにおける企業の誘致や人の往来・定住につながる事、行政事業の効率化、これらが上昇気流のスパイラルとして稼働しながら持続可能な社会の形成につながっているというのが素晴らしい事例であると考えられる。また、奈良県橿原市に「かしはらプラス」としてレコメンド型 HP への刷新にも反映されるなど、行政トレンドにも影響してきている。

今後の行政やまちづくりにおいては客観的な指標や累積的なデータを検証すること、サービスに必要な ICT 技術の各種事業へのフィッティングなどが大切になる。市民の個人情

報などのセキュリティやプラットフォームの拡張性など、ますますの進化を遂げる必要もあり、競争が激しくなる分野であると考えられる。

### 視察場所③「会津若松市議会改革」

議会基本条例の制定を機に、議会改革をスタート。2度の合併で議員数が最大61人の時もあった。

議員のみの検討・議論に限界を感じ、客観的な内外視覚からの分析や事例研究、市民参画や意見交換を行いながら進められ、同時に政治倫理条例も検討し、政治と議員に対する信頼性についての担保を目指している。

#### 《考察》

閲覧した資料においても議会活動の方向性が明確に示され、各分野ごとの活動方針も理路整然と記されている。

一連の流れとして、市民の意見を基に行政に対し直接質問を行うものと議会として政策討論の必要なものに分類し、内容に応じて分科会での討論を行なった後に市民との意見交換会に報告して最終的には行政に対する立案、提言、監視評価を行うサイクルがイメージされている点が素晴らしい。

議員個々のモチベーションや調査研究の深度も大いに影響していると考えられることから、他市事例も比較対象として今後も研究材料としていきたい。

### 視察場所④「おくやピーナッツ」

所在地：福島県喜多方市

豆菓子卸問屋に起源し、かつて落花生の特産地であった喜多方をもう一度落花生の特産地へと尽力されている。2019年農林水産大臣賞（地産地消部門）受賞。

#### 《考察》

企業理念をしっかりと持ち、生産合理性を追求することにとらわれず、地域と人の特性に合わせた仕事の仕方を考え実行している。特筆すべきは「人」の中に障がい者も取り込み、各々のできることを結びつけて会社経営と社会貢献を両立されているところである。

### 視察場所⑤「震災遺構 中浜小学校」

所在地：宮城県亘理郡山元町

2011年3月11日14:46分に発生した東日本大震災において、海岸から400mという場所にありながら屋上に避難した在校生ほか90名が生還したことで知られる。1989年（平成元年）に建設された施設で、設計当初から過去の水害での被災状況を教訓に基礎を2m嵩上げし、夜間でも近隣住民が避難できるようにと屋上への直通階段を設置していた。津波や引き波の流動方向も幸いして倒壊を免れたとも言われるが、校舎に刻まれた傷跡は痛々しく、見学者に地震・津波の恐ろしさと破壊力を見せつけるものであった。

#### 《考察》

東日本大震災の遺構に関しては被災各地において、保存と撤去にまつわる議論がされてきた。多くの人命を一瞬にして奪い去った悲愴感や恐怖体験を1日も早く拭い去りたいと

いう被災者の感情からすれば納得がいくものである。一方で、忘却はなされるべきでないという考えもあり、先人の経験と知恵を次世代に繋ぐという思いも高まった。

中浜小学校でのガイドは当時の学校長などの関係者も参画されており、当日の生々しい状況が伝わるものであった。

地球上で発生している地震の2割が日本列島で起きている。我々にとっては避けて通れない災害である。いつ起こるともしれない地震であるからこそ、「自助・共助・公助」の言葉の意味を見つめ、備えることやできることを積み上げなくてはいけない。行財政においては限られた財源をいかに工夫して日常平時に防災・減災に効力を持たせるかが肝要である。今後も様々な視点で災害対策に取り組みつつ、被災者復興のためにも手を差し伸べていきたい。